

共通テストの国語とは

共通テストの国語は、4大問構成で、解答時間は80分。4大問ともマーク式による試験である。従来のセンター試験と同様、知識事項や文章読解について出題される。基本事項を押さえて演習を積んでいくことが大切だ。

出題構成

試験時間 80分				大問	配点	本文ページ数	設問数	解答数
第4問	第3問	第2問	第1問	ジャンル	50点	4~5ページ	6問程度	10~12
漢文	古文	文学的文章	論理的文章		50点	4~5ページ	6問程度	10~12
50点	50点	50点	50点		50点	4~5ページ	6問程度	10~12
1~2ページ程度	1~2ページ程度	4~5ページ程度	4~5ページ程度		6問程度	6問程度	6問程度	10~12
6問程度	6問程度	6問程度	6問程度		6問程度	6問程度	6問程度	10~12
8~9	8~9	8~9	10~12		6問程度	6問程度	6問程度	10~12

出題内容と攻略ポイント

スタンダードな問題だが、短い時間で長文を読み解く力が必要。

難問・奇問はないが、読み込まなければならない文章量が多く、時間との勝負になる。文章を速く正確に読み取り、情報を的確に処理する力が必要である。また、すべてのジャンルで、本文の論の進め方や表現についての問いが出題される傾向が続いている。部分的な理解だけでなく、文章全体を正確につかむ力も求められる。

攻略ポイント

まずは正確に読むことを意識！
初めは十分な時間をかけ、共通テストと同程度の字数の文章を、正確に読み取る練習を積もう。

基礎問題が全体の約3割を占める。

センター試験では、評論の漢字、小説の語句の意味、古文の語句の解釈・文法問題、漢文の語句の意味や読み・訓読などが、全体の約3割を占めていた。共通テストでも同程度の基礎問題が出題されている。

攻略ポイント

基礎知識の徹底学習を！
基礎問題でもつたない失点をしないよう、基礎知識は繰り返し確認し、定着させておこう。

複数の文章や資料を関連づけて読む力が重要。

共通テストでは複数の文章や資料を読んでも互いに関連づけて考える力が求められる。

攻略ポイント

設問等に注目しながら「情報」を整理する！
複数の文章や資料を関連づけるための「視点」を設問等に注目しながら確認し、解答を導くために必要な「情報」を整理していきこう。

論理的な文章／実用的な文章

過去の出典一覧

共通テスト		試行調査	
2021	2022	2017	2018
「資料Ⅰ」ポスター 「資料Ⅱ」法的な文章 「文章」著作権 2.0 ウェブ時代の文化発展をめざして (名和小太郎)	「食べることの哲学」 (檜垣立哉) 「食べるとはどういうことか」 (藤原辰史)	「路地がまちの記憶をつなぐ」 「まち路地再生のデザイン」 路地に学ぶ生活空間の再生術 所収 (宇杉和夫)	「資料Ⅰ」ポスター 「資料Ⅱ」法的な文章 「文章」著作権 2.0 ウェブ時代の文化発展をめざして (名和小太郎)
「もの」の詩学 (多木浩二)	「メディアの中の声」 (若林幹夫)		

一つの文章からだけでなく、複数の文章や資料を題材に出題されるようになった。

文学的な文章

過去の出典一覧

共通テスト		試行調査	
2021	2022	2017	2018
「師走文壇の一瞥」 (宮島新三郎) (問6)	「庭の男」(黒井千次) 「案山子と雀の俳句3句」 (問5)	詩 エッセイ (吉原幸子) 小説「ツバメたち」(捨てる者) 「捨てる」ツバメたち」の作者は光原百合 ※小説中に別テキストの引用あり	詩 エッセイ (吉原幸子) 小説「ツバメたち」(捨てる者) 「捨てる」ツバメたち」の作者は光原百合 ※小説中に別テキストの引用あり
「サキの忘れ物」 (津村記久子)	「陶古の女人」(室生犀星) 「もの」と「こと」 「工藝」(柳宗悦) (問6)		

小説だけでなく、詩やエッセイも出題された。

設問構成

漢字		内容の把握		資料の役割の把握		論の展開・表現方法の把握		要旨の把握	
問1	問1	問1	問1	問1	問1	問1	問1	問1	問1
問2	問2	問2	問2	問2	問2	問2	問2	問2	問2
問3	問3	問3	問3	問3	問3	問3	問3	問3	問3
問4	問4	問4	問4	問4	問4	問4	問4	問4	問4
問5	問5	問5	問5	問5	問5	問5	問5	問5	問5
問6	問6	問6	問6	問6	問6	問6	問6	問6	問6

出題形式や対策の詳細は、4~5ページで確認!

設問構成

漢字／語句の意味		内容の把握		理由の把握		人物の様子		表現効果	
問1	問1	問1	問1	問1	問1	問1	問1	問1	問1
問2	問2	問2	問2	問2	問2	問2	問2	問2	問2
問3	問3	問3	問3	問3	問3	問3	問3	問3	問3
問4	問4	問4	問4	問4	問4	問4	問4	問4	問4
問5	問5	問5	問5	問5	問5	問5	問5	問5	問5
問6	問6	問6	問6	問6	問6	問6	問6	問6	問6

出題形式や対策の詳細は、6~7ページで確認!

論理的な文章 実用的な文章

共通テストの攻略ポイント

大学入学共通テストの第1問は、評論・論説文などの「論理的な文章」や「実用的な文章」を題材に出題される。さまざまな文章や資料から出題されるので、日頃から教科書だけでなく、日常生活のあらゆる場面で目にする文章の内容をしつかりと理解することを心がけよう。問題形式は、従来のセンター試験でも出題されてきた「漢字」「内容把握に関する問題」「論の展開・表現方法に関する問題」などに加えて、「情報の整理・統合に関する問題」などの、複数の文章や資料を関連づけて答える設問も出題される。

文章・資料 **さまざまな形式の文章や資料をどれだけ正確に把握できるかが鍵!**

設問から読み取れる「条件」を利用して、必要な情報を読み取る！
提示される文章・資料の内容は、論理的なもの、実用的なものなど多岐にわたる。どのような文章・資料であっても、まずは内容を正しく把握することが大切である。設問から読み取れる条件を見落とさないようにして、必要な「情報」を限られた時間内に効率的に読み取ることが心かげよう。

【内容の把握】
問われている内容を確認、解答の方向性を見つけよう！
関連性のある内容に注目して「情報」を整理する！
傍線部が表現していることを直接問うている場合もあれば、複数の文章や資料の情報を踏まえて解答する場合もある。後者の場合、まずは複数の文章や資料を関連づける「視点」を確認する必要がある。それぞれの文章や資料の「共通点」や「相違点」を踏まえながら、設問から読み取れる条件に合う情報を見つけだしていこう。

(2021本試 問5 iii)

① フートを完成したNさんは、近代の妖怪観の背景に興味をもった。そこで出典の『江戸の妖怪革命』を読み、フートを完成した。空欄 **V** に入る最も適当なものを、後の①～④のうちから1つ選べ。解答番号は **12**。

② 第二の僕、—— 独逸人の所謂 Doppelgänger は仕合せにも僕自身に見えたことにはなかつた。しかし重光利加の映画俳優になつたK君の夫人は第二の僕を帝制の陛下に見かけていた。僕は突然K君の夫人に「先達はつい御挨拶もありませんと言われ、当惑したことを覚えてゐる。それからもう故人になつたある變脚の翻訳家もやはり銀座のある煙草屋に第二の僕を見かけていた。死はあるいは僕よりも第二の僕に来るのかも知れなかつた。

③ 考案 ドッベルゲンガ (Doppelgänger) とは、ドイツ語で「二重に行く者」、すなわち分身の意味であり、もう一人の自分を見てまじ怪異の存在である。また、「ドッベルゲンガ」を見た者は死ぬと言ひ伝えられていると説明された。 **V**

④ 「前車」の僕は、自分の知らないところで別の僕が行動していることを知った。僕はまだ自分でドッベルゲンガを見たわけではないと安心し、別の僕の行動によって自分が周囲から承認されているのだと悟った。これは、「私」が他人の認識のなかで生かされているという神秘的な存在であることの例にあたる。
⑤ 「前車」の僕は、自分には心当たりがない場所でも別の僕が目撃されていたと知った。僕は自分でドッベルゲンガを見たわけではないのでひとまは安心しながらも、もう一人の自分が死が訪れるのではないかと考えていた。これは、「私」が自分自身を統御できない不安定な存在であることの例にあたる。

【漢字】
一度目にした漢字は確実に覚えよう！

文脈を意識して漢字の意味を確認したうえで、選択肢を吟味！
共通テストでも従来のセンター試験とほぼ同様の形式が出題されているが、新傾向として、漢字の意味に関する知識を問うものも出題されている。文脈を意識しながら漢字の意味を確認することが今まで以上に重要になってきていると言えるだろう。解説の「意味」や「書いて覚えよう」を活用して漢字の知識を増やしていこう。

【資料や引用の役割・効果の把握】
資料や引用だけに注目するのではなく、たえず本文の内容と照らし合わせよう！

資料や引用が文章とどのように関連しているかを把握する！
資料や引用は文章の内容をより効果的に伝えるために提示されているものがあり、文章の内容とどのように関連しているかを確認する作業は欠かせない。設問から読み取れる条件を踏まえ、資料や引用が文章においてどのような位置づけになっているかを考えながら読み進めよう。

【論の展開・表現方法の把握】
構成だけに注目するのではなく、たえず本文の内容と照らし合わせよう！

論の展開や表現技法の説明がよく使われる表現に注目！
設問は、本文全体の構成についての説明を求めるものが多い。まずは、問われている内容や選択肢の表現を押さえ、本文がどのような構成になっているかを確認しよう。そのうえで、「具体例の提示」「比較検討」「問題点の指摘」「主張の提示」などの論の展開の説明の理由によく使われる表現に注意しながら選択肢の内容を吟味していこう。
また、本文の表現についての説明が問われることもある。部分的な読解にとどまらず、文章全体を俯瞰的にとらえながら、筆者がねらった表現効果や引用の意図などを読み取ろう。選択肢を吟味する際は、選択肢で取り上げられている表現技法とその効果が本文ときちんと対応しているかどうかを確認しよう。

【要旨の把握】
問われている傍線部や資料のみに着目するのではなく、本文全体の内容と照らし合わせよう！

本文の論旨から外れないように注意して選択肢を吟味！
設問は、本文の要旨を問う以外に、本文で述べられている内容を、別の文脈や資料等に当てはめて考えることを求めるものも出題される。本文以外に提示される内容は、本文に書かれていない具体例、本文と内容的に関連した資料・事柄等、多岐にわたるが、本文全体の要旨を踏まえ、条件として提示された場面設定に応じて判断していくことが求められる。いずれにしても、「本文の論旨と矛盾しないか」「本文の論旨から論理的に導き出される推論として適切か」といった観点から選択肢を吟味していこう。

文学的な文章

共通テストの攻略ポイント

大学入学共通テストの第2問は、小説・随筆（エッセイ）・詩歌などが出題される。日頃から授業や読書などをおしてさまざまなジャンルの文学作品に触れるように心がけよう。問題形式は、従来のセンター試験でも出題されてきた「語句の意味」登場人物の心情に関する問題」「表現に関する問題」などに加えて、「本文とは別の文章をもとにした解釈に関する問題」といった複数の文章を関連づけて答える設問も出題される。

さまざまな文章を限られた時間で正確に把握できるかが鍵！

設問の「条件」等を利用して、必要な「情報」を正確に読み取る！
本文は、小説・随筆（エッセイ）・詩歌などが中心に出題される。内容も多岐にわたるので、演習問題などでさまざまな文章に慣れておくことが大切である。また、関連のある複数の文章が提示された場合には、設問から読み取れる条件等で関連づけの方向性を確認し、問題を解くうえで求められている情報を効率的かつ正確に読み取ることが要求される。

【内容の把握】 問われている内容を確認し、解答の方向性を見つけよう！

設問の意図を読み取り、選択肢を吟味する！
特定の表現に関する内容の単純な理解を求める問題だけでなく、特定の表現に関してより深い内容理解を求める問題等も出題される。文章にある比喩的な表現等に関連する資料（辞書的な意味・表現整理ノートなど）が提示される場合があり、それらの資料と本文との関係性をきちんと押さえることが大切である。設問の条件を踏まえうえで、複数の資料を関連づけながら選択肢の内容を吟味しよう。

2022本試 問5

● 設問の意図を読み取り、必要な「情報」を正確に読み取る！

● 本文は、小説・随筆（エッセイ）・詩歌などが中心に出題される。内容も多岐にわたるので、演習問題などでさまざまな文章に慣れておくことが大切である。また、関連のある複数の文章が提示された場合には、設問から読み取れる条件等で関連づけの方向性を確認し、問題を解くうえで求められている情報を効率的かつ正確に読み取ることが要求される。

● 設問の意図を読み取り、必要な「情報」を正確に読み取る！

● 本文は、小説・随筆（エッセイ）・詩歌などが中心に出題される。内容も多岐にわたるので、演習問題などでさまざまな文章に慣れておくことが大切である。また、関連のある複数の文章が提示された場合には、設問から読み取れる条件等で関連づけの方向性を確認し、問題を解くうえで求められている情報を効率的かつ正確に読み取ることが要求される。

● 設問の意図を読み取り、必要な「情報」を正確に読み取る！

● 本文は、小説・随筆（エッセイ）・詩歌などが中心に出題される。内容も多岐にわたるので、演習問題などでさまざまな文章に慣れておくことが大切である。また、関連のある複数の文章が提示された場合には、設問から読み取れる条件等で関連づけの方向性を確認し、問題を解くうえで求められている情報を効率的かつ正確に読み取ることが要求される。

【語句の意味】 辞書的な意味を踏まえることが基本！

文脈に引きずられず辞書的な意味を意識して選択肢を吟味！
共通テストでも、語句の意味に関する出題がなされた時は従来のセンター試験同様の形式で出題されている。語句自体は特に難解なものではない。設問に「本文中における意味として」とあっても、辞書的な意味を踏まえて考えることが攻略のカギだ。

【心情の把握】 設問の意図を正しくつかもう！

傍線部から設問の意図を読み取り、選択肢を吟味する！
センター試験でも頻出であった問題。「心情はどのようなものか」という問われ方だけでなく、「なぜ傍線部のように言えるのか」「傍線部の説明として」「傍線部の理由として」といった形でも心情把握が問われる。また、「表現に表れた心情」「表現から読み取れる心情」を問うものも見受けられ、特徴的な表現を常に意識しながら本文を読み進めることが求められている。なお、「言動に表れた心情」や「場面における登場人物の心情」などのように一時点における心情を問うほかに、心情の変化について出題されることもある。さらに、複数の文章が題材となっている場合、傍線部が引かれている文章ではない方の内容を踏まえて答えるよう求められることもある。

【表現と内容の特徴の把握】 問われている内容を確認し、解答の方向性を見つけよう！

評価の視点を踏まえながら情報を整理する！
表現効果の評価に関する問題は、解説文や会話形式・授業形式の文章などを別資料として提示して、どのような視点から評価しているかを示唆する場合が多い。したがって、まずは評価の視点をきちんと把握することが重要になってくる。そのうえで、設問の条件に合うような情報を見つけ出し、解答の方向性に合わせて整理しよう。

2021本試 問6

問6 次を示す資料は、この文章（加能作次郎「羽織と時計」）が発表された時、新聞紙に掲載された批評記者は宮島新三郎。原文の仮名遣いを改めてある(1)の二語である。これを踏まえ(2)～(5)の問いに答えよ。

【資料】
今までの氏は生活の種々相を縦々な方面から多角的に描敬して、其処から成るものを浮き上らせようとしたが、あつたし、又そのすることに依つて作品の効果を強大にするという長所を示していたよに思う。見た處、有り餘の儘を刻明に描写する——其処は氏の有する大きな強味がある。由來氏はライフの一点だけを凝って作をするというふうな所謂「小説」作家の面影は有つていなかった。

それが「羽織と時計」になると、作者が本當の泣き笑ひの悲痛な人生を描こうとしたものが、それとも単に「羽織と時計」に伴う思い出を中心にして、ある一つの興味ある視点を、否一つのおちを物語つてもやうつことしたのかわらない程、う所の小説興味が多過ぎた嫌いがある。若し此作品から小説興味を取去つたら、即ち「羽織と時計」に作者が関心し過ぎなかつたら、そして飽くまでも私の見たW君の生活、W君の病氣、それに伴う複雑な、悲惨な境遇を如実に描いたなら、一層感銘の深い作品になつたろうと思われる。「羽織と時計」とに教し過ぎたことは、この作品をユーモラスなものにする點ではなかつたが、作品の効果を増す力にはなつて居ない。私は寧ろ忠実なる生活の再現者としての加能底に多くの尊敬を払つて居る。

宮島新三郎「評事新報」一九一八年二月七日

(i) 資料の二重傍線部に「羽織と時計」に教し過ぎたことと、この作品をユーモラスなものにする助けとなつたが、作品の効果を増す力にはなつて居ない」とあるが、それはどのようなことか。評者の意見の説明として最も適當なものを、次の(1)～(5)のうちから二つ選べ。解答番号は 20。

① 多くの神話からW君の姿を浮かび上がらせようとして、W君の描き方に予期せぬ力が生じている。
② 実際の出来事を忠実に再現しようと思つた結果、W君の悲愴な思いに寄り添えていない。